

## 企画展「近代杉並の発展と浴風会」

杉並区立郷土博物館（大宮 1-20-8）では、関東大震災などで生活基盤を失った高齢者を支えてきた浴風会の 90 年のあゆみと近代杉並の発展の歴史を合わせて展示しています。学校の夏休み期間にも重なり、多くの来場者で賑わっています。展示は、9 月 23 日までとなっています。

浴風会は、今も昔も高齢者のための施設として、多くの人の命を守り心の拠り所となってきました。そのスタートは、大正 12 年 9 月 1 日に発生した関東大震災です。お昼の直前に起きたマグニチュード 7.9 の地震で、倒壊した建物から次々に出火したこともあり、死者行方不明者は 14 万人を超える大災害となりました。

こうした中で、生み出された身寄りのない高齢者を援護するため開設されたのが浴風会です。皇室からの義捐金を基に、内務省社会局が財団法人として設立しました。第二次世界大戦後にも、大切な家族を失い困り果てた高齢者の生活の場ともなってきました。現在は、社会福祉法人



に改組されていますが、介護サービスや認知症サポートの拠点として、地域の老人保健・福祉・医療の中核施設として無くてはならない存在となっています。

郷土博物館では、浴風会の 90 年を振り返るため、開設当時に使っていた火鉢や設立に関する文書など貴重な資料や写真を展示しています。また、関東大震災で住まいを失った人々が移り住んだことで、農村から住宅都市として発展していった近代杉並のまちの姿も併せて紹介しています。

この展示は 9 月 23 日までで、観覧料は 100 円です（中学生以下無料）。展示品の中には、東京都選定歴史的建造物に指定されている浴風会本館の設計図面も含まれています。この本館は、東京大学安田講堂の設計でも知られる内田祥三氏の手によるもので、建築家を目指す方にも貴重な資料となっています。